

「島人ぬ美ら海の話」



海図150年記念講演会

～Japan Chart 150th～

海に囲まれた我が国は、古くから漁業や貿易など「海」を通じて、様々な活動をおこない、多くの恩恵を受けてきました。このような活動は、船を利用することが多く、その安全には「海図」が不可欠です。

海図を刊行してから『150年』の節目を迎えるにあたり、広く国民の皆様が海図の重要性や、ここ沖縄の美ら海から受ける恩恵について理解を深めて頂くため、「島人ぬ美ら海の話」をテーマに、専門家による特別講演のほか、明治初期の沖縄の海図等についての講演会を行います。

開催日 **2021**
11/30 TUE
13:30～17:00
受付開始(13:00)

会場

沖縄県立博物館・美術館講堂 3階
(那覇市おもろまち3丁目1-1)



会場へのアクセスは
QRコードをご利用ください。

定員 先着100名

入場無料
要事前登録

～ プログラム ～

13:30 開会挨拶 第十一管区海上保安本部長 一條 正浩



13:40～
14:30

「美ら海の複雑な流れ」

御手洗 哲司

(沖縄科学技術大学院大学准教授)



14:40～
15:30

「琉球弧および周辺海底の地質と地球物理」

～海上保安庁の研究成果を中心に～

古川 雅英

(琉球大学理学部教授)



15:40～
16:30

「うちなー海図とこれから」

～美ら海と150年を歩んで～

山本 正

(第十一管区海上保安本部
海洋情報企画調整官)

16:30 総合質疑

16:50 閉会挨拶 第十一管区海上保安本部 次長 藤田 雅之

申し込みはこちらから

第十一管区海上保安本部 ホームページ「海図150年特設ページ」
URL:https://www1.kaiho.mlit.go.jp/KAN11/150th/150th_index.html



左のQRコードからも
申込できます

お電話のお申込みの際は下記の連絡先までご連絡ください。

第十一管区海上保安本部 海洋情報調査課

電話098-867-0118 (内線2532) (受付時間:平日9:00-17:00)

申込期間:11月24日(水)午後5時まで

※申込は先着順で、定員になりましたら締め切らせていただきます。

※新型コロナウイルス感染拡大防止対策や荒天等の影響で中止となる場合があります。

【講演者のプロフィールと講演概要】

沖縄科学技術大学院大学
海洋生態物理学ユニット 准教授 御手洗 哲司

「プロフィール」

米国ワシントン大学で博士号(流体力学)を取得後、カリフォルニア大学サンタバーバラ校で海洋中の大小様々なスケールの乱流が生物現象に及ぼす影響を解明する研究を行う。沖縄では最新のモデルと観測技術を組み合わせ、沖縄近海の海洋環境予報システムを構築し、沖縄近海の幼生輸送パターンの解明研究を行っている。

「講演概要」

沖縄が誇る美ら海は多様な特色を備えている。高い生物多様性を維持すサンゴ礁の海、世界で最も台風に影響される海、独特な深海熱水噴出孔を有する深海。沖縄科学技術大学院大学の海洋生態物理学ユニットでは、これらの海で起きていることを、主に海洋生態学の手法を組み合わせつつ、第十一管区海上保安本部を筆頭とする沖縄県内の機関と協力することで取り組んできた。本公演では、沖縄の豊かな生態系を育む要因の一つになると思われる、複雑でダイナミックな海の流れを、海洋観測結果と海洋モデルを組み合わせながらご紹介する。

琉球大学理学部
物質地球科学科 地学系・教授 古川 雅英

「プロフィール」

琉球大学海洋学科を卒業後、神戸大学大学院にて博士号を取得し、京都大学防災研究所(特別研究員)、科学技術庁放射線医学総合研究所、IAEAモナコ海洋環境研究所(客員研究員)等を経て2005(平成17)年から現職。「海洋地質学」「放射線環境地学」などの講義を担当。現在、琉球大学の戦略的研究プロジェクトセンター長、情報基盤統括センター長を併任。小学5年生～中学3年生対象のJSTジュニアドクター育成塾(琉大ハカセ塾)の塾長も務める。

「講演概要」

大小の島々からなる沖縄県の土台は、琉球弧とよばれる海底地形の高まりです。琉球弧の大半は海水に覆われていますので、沖縄の島々と琉球弧の成り立ち(地史)を知るためには、海底下の地層や断層などを調べる必要があります。本講演では、海上保安庁海洋情報部(旧水路部)が琉球弧周辺海域で長年にわたって行ってきた地球科学的調査の概要を紹介し、その研究成果を中心に琉球弧の地史について解説します。

第十一管区海上保安本部
海洋情報企画調整官 山本 正

「プロフィール」

海上保安庁入庁後、水路業務を行う水路部(現在は海洋情報部)で、一貫して測量や海図の編集・刊行に関する業務に従事しており、現在は第十一管区海上保安本部の海洋情報企画調整官として、沖縄周辺海域における海図作製に関する調査や船舶航行安全のための情報提供等の業務について主導的な立場にある。

「講演概要」

幕末から欧米各国が日本周辺海域の測量を積極的に実施しており、その手によって明らかにされている状況であった。このような状況を国防上等の危機と感じた明治政府は、明治4年に測量から海図の刊行に至る一連の水路業務を行う組織「海軍水路局」を創設した。翌年明治5年には海図第1号を刊行、沖縄関係では明治7年に初めて、海図19号「大琉球那覇港之図」が刊行されている。創設から150年経過した令和3年の現在、科学技術の発展や社会情勢の変化に伴い、海図にとどまらず、幅広い海洋情報の提供が求められるようになってきている。本講演では、創設から調査技術などの発展、沖縄の地理的位置づけを交えながら150年の歩み、さらには今後の展望等についてご紹介する。